

デリバリーうき

今 宇城市環境フォーラム2006「環境保全シンポジウム」 後の環境問題を見据えて

11月12日にウイングまつばせで行われ、市民約800人が参加しました。全国モーターボート競走施行者協議会の助成を受け市が主催。

第1部では、女優で農政ジャーナリストの浜美枝さんが「あの人もこの人も環境市民」と題して講演。芸能活動などの経験を例に話しました。

第2部パネルディスカッションでは、蓑茂寿太郎熊本県立大学理事長をコーディネイターに、浜美枝さん、岡村謙一さん（宇城市環境保全隊副理事長）、関宣昭さん（里山を考える会会長）、村田幸博さん（熊本県地域づくりアドバイザー）、阿曾田清市長の5人をパネリストに「立ち上がる環境志民」をテーマに討論されました。

また、同日は豊野町鑑ヶ池遊歩道を会場に「水と森のウォーキング」も行われ、自然観察指導員と動植物を観察しました。



「環境に優しいことを進めよう。1人1人が何をすれば良いのか考え、日常生活を見直し、できることから始めよう」と語る浜さん

見 小熊野川兩岸の竹を伐採 通しがよくなりました

市民一斉美化作業が行われた11月19日、宇城市環境保全隊豊野支部の会員など約30人が、豊野町の宮田橋一帯で行いました。道路の見通しを悪くしていた竹を切ることで交通事故多発に歯止めをかけ、景観を良くすることが目的。支部によると、今後はこの地に花を植え、子どもたちが遊べるような場所にする予定とのことです。



川の水に漬かりながら次々と竹を伐採する参加者

光触媒の塗布作業



環 光触媒（酸化チタン）の塗布 環境浄化と地球温暖化問題の解決に向けて

NPO「Ecoシティー研究会・どんぐりの木」（若城浩史代表）と環境事業に取り組む東京の企業が協力して10月25日、小川町の大型ショッピングセンター内の歩道で行いました。大気中の有害物質を分解・除去する光触媒。若城代表は「塗った個所が多いほど効果が上がります」と塗布場所の提供と活動資金の提供を呼び掛けています。連絡は☎090—3410—8382（若城）まで。

川 テナガエビ354匹を放流 ・環境・地域に感謝する心を育てたい

日ごろから環境学習に力を入れている豊野小5年生47人が11月9日、同小プールに放流しました。子どもたちに環境への関心を持ってもらおうと夢・豊野塾（伊藤家次会長）が開催。初めに提供元である熊本南部地区市民の会副会長の村田幸博さんが、緑川流域やエビの生態などについて説明。その後、エビが入ったバケツが1班に1つずつ渡されました。児童はエビを恐る恐る触り、数を数えながら放流。来年のプール開き前にエビ釣りをする予定です。本田綾也香さんは「大きくなるように、みんなで協力して、えさやりなどの世話をしていきたい」と話しました。



放流されたテナガエビ

捨 第9回うきうきリサイクル祭り てればごみ、使えば宝

11月12日に宇城クリーンセンターでありました。宇城広域清掃施設組合が主催。水晶太鼓の演奏でステージ部門の幕が開き、リサイクル講座発表会や夏休み子ども作品表彰式などが行われました。中でも、家具や自転車などが当たるリサイクル品無料抽選会は大人気。また、紙すき体験や資源ゴミを利用したゲームコーナーなどは親子連れなどでにぎわいました。



フリーマーケットでお目当ての商品を探す来場者

1匹ずつエビをプールに放つ児童。エビはプランクトンを食べながら成長し、プールを浄化していくとのこと



11月3日・4日に開催された松橋会場（ウイングまつばせ）の様子



日 第2回宇城市民文化祭 ごろの成果を発表

10月31日から11月12日にかけて、市内5会場で開かれました。宇城市文化協会および同各支部が主催。文化協会会員による日舞や民謡、吟詠、ダンスなどのステージのほか、公民館講座で作った各種作品、小中学生による書や絵画などが展示され、来場者たちは「文化薫る秋」を満喫しました。